ごみの減量に挑戦!!

日ごろの心掛けで、ごみは必ず減ります！

町では、ごみの減量化・資源化に取り組んでいます。ごみの減量化は、環境への負荷が少ない循環型社会を目指すうえで、とても大切なことです。

また、ごみ処理には多額の経費が費やされており、ごみを減らすことで、ごみ処理に使われているお金を削減することができ、皆さんが必要としている福祉、教育、防災対策といった他の分野に削減できたお金を使うこともできます。

それでは、ごみを減らすためにはどうしたらよいでしょうか？

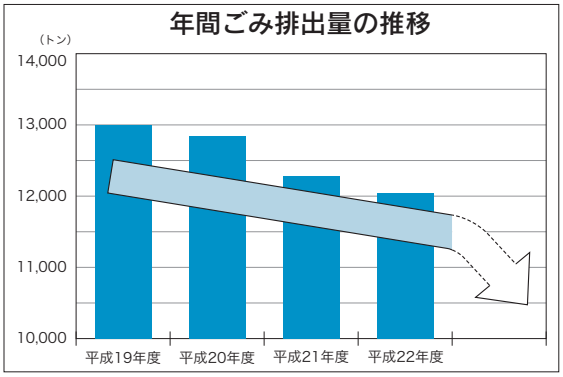
ごみの減量化に向けて

町に出されるごみの量

平成22年度の町の年間のごみの量は約1万2千トン。町民1人当たりでは、年間約370kgで、1日に約1kgのごみを出していることになります。

町ではごみの量を減らすため、コンポスターや電動生ごみ処理機の普及促進、水切りの徹底、せん定枝の分別など様々な取組みを行ってきましたが、町民の皆さんのご協力などにより、平成19年度（約1万3千トン）と比較すると、年間約1千トン（比率にすると約7％）減量することができました。

1人当たりの年間のごみの量としては、約30kg、ダイエットに成功したことになります。



ごみ処理に使われるお金

町のごみ処理に使われるお金は年間で約7億円。ごみ処理に関係する町の収入約7千万円を差し引いても、約6億3千万円もの税金が使われています。

これを町民1人当たりに換算すると、1人当たり約2万円の経費が1年間に費やされていることになります。

消防や救急に使われているお金約1万5千円（1人当たり）よりも多くの税金が使われています。

小さなことでも真剣に取り組むことで・・・

家庭で出来ること

【生ごみの水切りの徹底】

町に出されるごみのうち、「燃せるごみ」は年間約9千トン。そのうち、水分を多く含む「生ごみ」が約半分を占めています。

生ごみに含まれる「水分」がごみ減量の最大のポイントとなります。

この水分を減らすためには、コンポスターや家庭用電動生ごみ処理機を使って処理することが有効ですが、生ごみを捨てる前の「ひとしぼり」、小さな「ひとしぼり」でも皆さんで行えば、とても有効で大きな力になります。

買い物時に出来ること

【レジ袋はもらわない】

レジ袋は全国で年間300億枚使用されています。1人当たり年間約300枚を使っていることになります。

町に換算すると年間約1千万枚、すべてごみとして出された場合、レジ袋1枚を10gとすると、約100トンがごみとして出されることになります。

【過剰包装はNO！】

過剰な包装に対しては、はっきりと「いりません」と言いましょう。

空き箱や包装などの紙類は、資源になります。雑誌等に分類し資源化にご協力ください。

【詰替え製品の利用を】

シャンプーやしょう油などの製品は詰替え製品にしましょう。お買い得なうえ、ごみの減量にもなります。

【マイバックの推進】

マイバッグを持参して、包装ごみを減らしましょう。

NO！レジ袋・マイバッグ持参運動にご協力ください。